

ヤマカガシ

(学名: *Rhabdophis tigrinus*)

(写真・文 吉岡義雄)

【有鱗目ナミヘビ科】



▲ 目は大きく、動くものによく反応する



▲ 威嚇するヤマカガシ。コブラのように頸部を広げ、敵に見せつける

ヤマカガシは、全長70～150cmのナミヘビ科のヘビです。背面の斑紋は個体差や地域差が大きく、只見では写真のように黄色および赤色の斑紋を欠くものもよく見られます。両生類の成体と幼生、魚類などを捕食しますが、特にカエルを好みます。そのため、カエルが多く生息する湿った林縁部や水田に多く生息しています。

ヤマカガシは2種類の毒を持っています。一つ目は、喉の奥にある牙によって注入される毒です。深く咬まれなければ注入されませんが、毒性は非常に強く危険です。本来は捕食のために用いる毒で、獲物を飲み込む際に毒を注入する仕組みになっています。

もうひとつは、首のあたりの皮膚の下にある毒腺(頸腺)から分泌される毒(頸腺毒)です。頸部に強い圧力が加わるとにじみ出る仕組みになっており、時には飛び散ることもあります。この頸腺毒が目に入ると激しく痛み、失明する恐れもあります。威嚇の際はこの頸部を天敵に見せつけるような姿勢をとり(写真右)、敵が頸部を攻撃するように誘います。実はこの頸腺毒は、獲物のヒキガエル由来の成分であることが知られています。また、頸腺毒は母親から子に引き継がせることができます。頸腺毒を持った子の方が生存に有利であるため、産卵前のメスは積極的にヒキガエルを捕食することが知られています。

只見町ブナセンターからのお知らせ

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」「ふるさと館田子倉」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

写真展「この写真、どこ？だれ？何してる？」

—皆川文弥が撮った只見線が開通した頃の只見—

会 期：2022年8月11日(木)～2022年11月28日(月)

場 所：ふるさと館田子倉 2階会議室

企画展「自然素材を活かす技」

—木地、編み組、草木染めと伝承製品の魅力—

会 期：2022年10月29日(土)～2023年3月27日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー